

# 平成 26 年度 NBC 冠講座「起業と事業創造」(2年生) 開講報告

本学では、社団法人東京ニュービジネス協議会(NBC)との包括提携に基づく共同事業推進の一環として、科目の共同運営を行っています。平成26年度は、2年生対象の「起業と事業創造」を後期月曜日の3限に開講し、本学卒業生による特別講義の他、NBCからも4人の経営者を特別講師としてお招きし、起業に関する特別講義を行っていただきました。

## I. 概要および講義の様子

①	9月22日	オリエンテーション、 ★履修意識調査(受講前)によるアンケート実施
②	9月29日	講義:「起業家の基本特性」「起業の現状」「課題レポートの書き方について」
③	10月6日	講義:「起業家の基本特性②」「起業の領域」
④	10月13日	◎株式会社スリーエフ 商品開発部 相羽 香里 氏 (本学経営学部卒業生) 講義テーマ『事業創造と商品開発』受講者90名
⑤	10月20日	講義:「有望新規事業領域の探索方法」
⑥	10月27日	◎株式会社ベアーズ 専務取締役 高橋 ゆき 氏 講義テーマ『家事代行業という業界を創出する』受講生95名
⑦	11月3日	講義:「ヒトの観点から見た事業展開」「事業発展と経営課題」
⑧	11月10日	◎エッセンス株式会社 代表取締役 米田 瑛紀 氏 講義テーマ『新しいタイプの人材ビジネスを創出する』受講生100名
⑨	11月17日	講義:「起業アイデアと事業コンセプト」「お金の観点から見た事業展開」
⑩	12月1日	◎株式会社ベル・フルール 代表取締役 今野 政代 氏 講義テーマ『主婦からの起業、そしてブランド確立へ』受講生92名
⑪	12月8日	講義:「ソーシャルビジネス領域の起業活動」「ビジネスプランの作成方法」
⑫	12月15日	◎株式会社パン・アキモト 代表取締役 秋元 義彦 氏 講義テーマ『世界に羽ばたくソーシャルビジネス』受講生96名
⑬	12月22日	講義:「ビジネスプランの作成方法②」「利益思考と利益志向」 ★履修意識調査(受講後)によるアンケート実施、特別講義感想アンケート実施
⑭	1月19日	テスト

### <教室の様子>



エッセンス株式会社は、「新しい仕事文化をつくる」をミッションとして、従来の「終身雇用・年功序列」のような従来の雇用にとらわれない、新しい企業と個人の関係性づくりに取り組んでいる企業です。「人と人を“結びつける”こと」をコアとした営業課題を解決するビジネスモデルで、2009年にエッセンス株式会社を設立。営業のプロフェッショナルと成長企業との出会いを通じ、企業の売上に貢献するビジネスを提供しています。現在では、営業だけではなく、経営、マーケティングといった各分野のプロフェッショナルと企業を繋ぐプロパートナーズ事業を立ち上げ、多くの成長企業を支援するべく事業を展開されています。

講義では、アルバイトや就職、サラリーマン時代、転職等の経験を通して、起業までの経緯をお話いただきました。何度もの分岐点があったと語られる米田社長は、人材ビジネスについても時代に即した「新しい働き方」への変化を見極め、変化を見据えた事業を展開しています。「人生決断の数が多いほど成長し、成功している」、「成功の秘訣は諦めないこと」と熱く学生にメッセージを送っていただきました。



### 12月1日 株式会社ベル・フルール 代表取締役 今野 政代 氏 講義テーマ『主婦からの起業、そしてブランド確立へ』

フラワーデザインの第一人者として知られ、2008年には銀座に日本初のブリザードフラワー専門店「ベル・フルール銀座本店」をオープンさせた今野社長。ごく普通の花好きの主婦が、知人を対象に自宅で教室を開いたのが30年前。その後、フラワーデザイナーの資格を取得し自らのスキルに磨きをかけ、専門学校講師やさまざまなイベントでのデモンストレーションを行い、2002年にブリザードとフラワーが日本に上陸した時には日本で初めてブリザードフラワーの活用方法を記した本を出版。現在はデザインスタジオを始め、ベル・フルール銀座本店、有名百貨店でのショップ展開やスクール運営に加え、フラワー業界の各団体で要職を務めておられます。

講義当日は、実際にブリザードフラワーをご用意いただき、学生は商品を実際に手に取りながら、今野氏の起業のストーリーに聞き入っていました。

ブリザードフラワーの原産国の一つであるコロンビアの写真なども交え、ブリザードフラワーのマーケットの拡大に伴い、コロンビアの経済発展に大きく寄与し、ブリザードフラワービジネスを通じて女性の雇用を創出したり、コロンビアの高親のない子供達が、パソコン実習

やパン作りの実習、様々なレクリエーションを行う場を提供し、子供たちの将来の自立を手助けする施設の設定などにも貢献していることなどをご説明いただきました。

今野社長からは「起業には、まずやってみるという瞬発力と、やり続ける力が必要」というメッセージを送っていただきました。

### 12月15日 株式会社パン・アキモト 代表取締役 秋元 義彦 氏

#### 講義テーマ『世界に羽ばたくソーシャルビジネス』

栃木県・那須塩原市にあるベーカリーのパン・アキモト。パン・アキモトといえば「パンの缶詰」。非常食という乾パンのように固いものを想像してしまいがちですが、パン・アキモトのパンの缶詰は製造から3年がたっても、焼きたてパンのようにふわふわで柔らかい。しかも味の種類は25種類にも及びます。しかし、災害用に保存される「パンの缶詰」は、賞味期限が過ぎると廃棄処理されてしまう。秋元社長がひらめいた「保存食リユースシステム」によって、この「パンの缶詰」を世界各地の人々に届ける事業を、持続可能な採算がとれるビジネスにまで育て上げています。

講義当日には、実際にパンの缶詰「救世鳥」をご用意いただきました。学生は、製造されたばかりのパンの缶詰と、製造から2年半が経過したパンの缶詰の両方を試食して、実際に柔らかい食感を体感し、それらが世界各地に届けられるソーシャルビジネスの仕組みを肌で感じました。

地域密着型のパン屋を営みながら、救世鳥ビジネスというソーシャルビジネスを展開する秋元氏。「自分のやりたいことができるのが社長です」「困っている人の困り事を解決するのが南売の原点です」と学生たちに語っていただきました。

パン・アキモトの「パン」は食べるパンという意味以外に、「世界」という意味を持つと語られた秋元社長。世界に目を向けたビジネス構想に学生たちは、大きな感銘を受けた様子でした。

### 10月13日 株式会社スリーエフ 商品開発部 相羽 香里 氏 (本学経営学部卒業生)

#### 講義テーマ『事業創造と商品開発』

相羽さんは、本学経営学部第二期の卒業生で、在学中は櫻澤ゼミに所属し、初代東海道五十三次ウォークの実行委員長を務められました。在学中からコンビニエンスストア業界に強い関心を持ち、研究熱心だった相羽さん。講義では社会環境の変化や小売業の変化と合わせて、20年前と今日のコンビニエンスストア業界の変化について詳しく解説していただきました。



また、講義テーマである、「商品開発」についても、ご自身が開発に携わった商品を例に具体的な商品開発の流れとそれに必要とされるスキルや知識についてお話いただきました。

講義全体を通して相羽さんが強調していたのは、社会に出てからのスタートダッシュや、商品開発者としての情報分析力などを高めるには、大学で学べる「今」を大切に、身近にあふれている「タダ」で得られる様々な情報を、目的を持って見つめること。

学生から、「今後社会に出ていく上で、今できることを大切にしなければならないこと」、「目的を持つことの大切さを学んだ」という声が多数寄せられました。



### 10月27日 株式会社ベアーズ 専務取締役 高橋 ゆき 氏

#### 講義テーマ『家事代行業という業界を創出する』

株式会社ベアーズは、高橋専務自身が香港の企業で働きながら利用したメイドサービスによって家事や育児を快適にこなした経験から、家の中のことを安心して任せられる家事のパートナーの必要性を強く感じ、1999年に日本初の家事代行サービス業として設立されました。「お客様感動度120%の飽くなき追求」、「女性の愛する心を応援します」を基本コンセプトとし、家事代行サービス、ハウスクリーニング、ベビー&キッズシッターというサービスの他に、法人向けのオフィス・ビル清掃サービスも手がけています。

家事代行ビジネスが、女性の社会進出が増え共働きが当たり前になってきた今日の「新しい生活スタイル」として、新しい文化・習慣を創出し、さらにはベアーズレディとして20代から80代という幅広い世代から家事代行サービスを行う人材を雇用する「新しい雇用の創出」という社会的ミッションを達成しているというお話に、学生たちは熱心に聞き入っていました。

### 11月10日 エッセンス株式会社 代表取締役 米田 瑛紀 氏

#### 講義テーマ『新しいタイプの人材ビジネスを創出する』

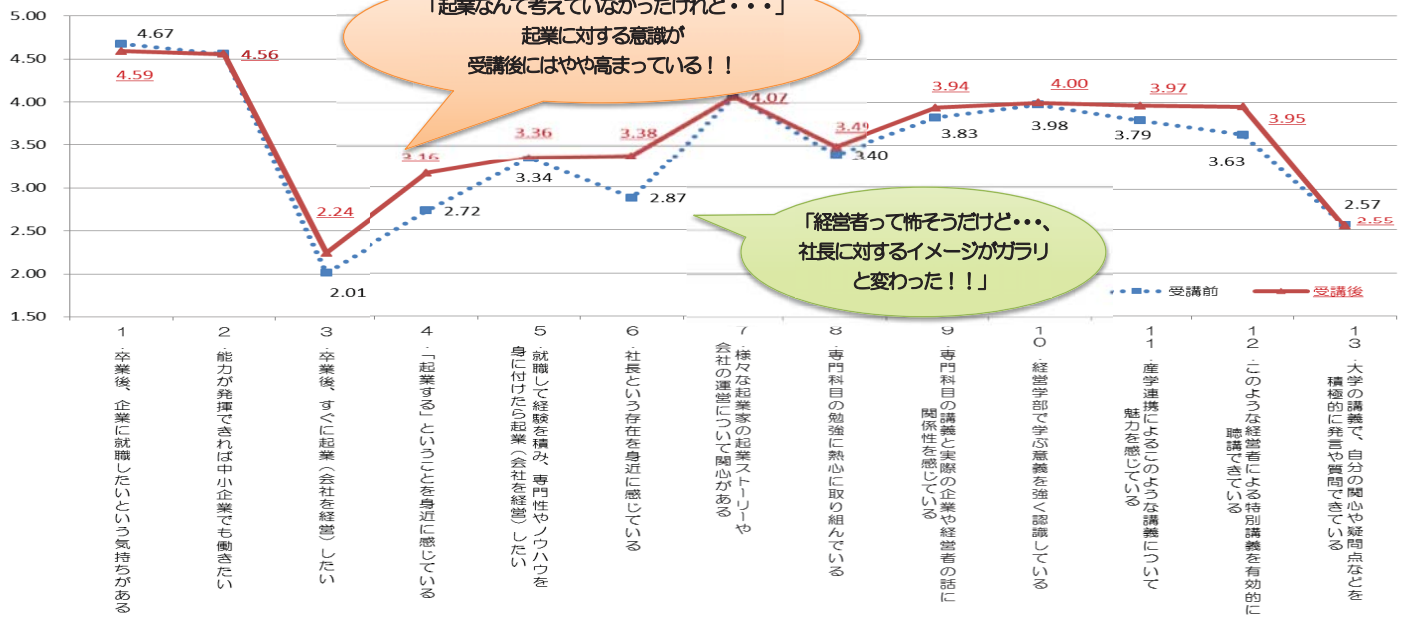


## II. 履修者の起業意識、学習意欲の推移

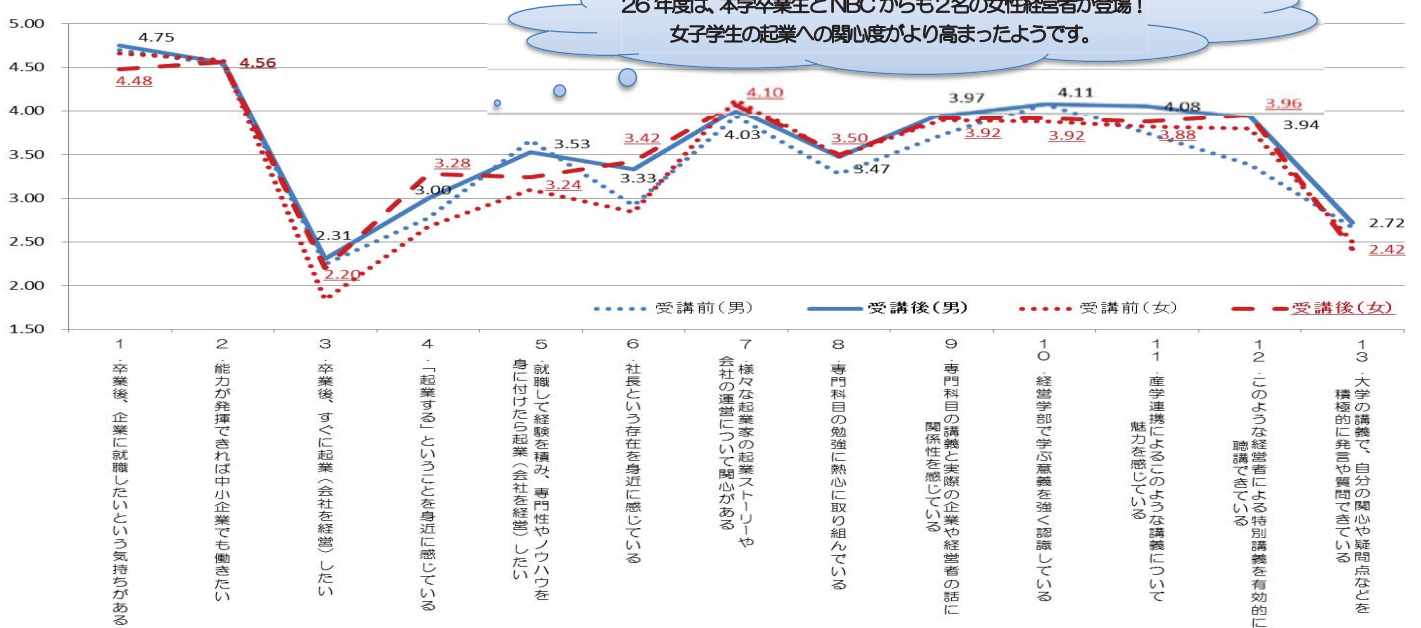
下記のグラフは、本講座の受講前・受講後の2回にわたって行われた全てのアンケートに回答した61名の履修学生の平均値の推移をグラフ化したものです。

※全ての質問に対し、「5. そう思う」「4. ややそう思う」「3. どちらともいえない」「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」の5点尺度で回答したものを集計してあります。

(1) 全体の平均値の推移—有効回答：86名



(2) 男女別の平均値の推移—有効回答：男36名、女50名



(3) 特徴ごとに見る起業意識の差異(受講後)—有効回答 全体：86名、起業を意識している学生：9名、保護者等に起業家や経営者がいる学生：41名

